

またまた出現、白いミナミハンドウイルカ！

先日、ダイビング事業者さんから、嫁島で撮影したとあるミナミハンドウイルカの写真をご提供いただきました。そこに写っていたのは、なんと、白い体をしたミナミハンドウイルカの子供でした。白い体と聞くと、第一に「アルビノ※」を思い浮かべますが、この子の目の色は通常通りの黒色に見えます。アルビノの場合は、目の色素も抜けてピンク色になるため、この個体は、突然変異により色素が減少し、表皮が白化した「白変種」と考えられます(イルカ通信No.65)。鯨類の世界では、アルビノを含めて白い体色の個体がこれまで25種ほどで確認されています(Fertl and Rosel 2017)。ですが、ミナミハンドウイルカでの報告事例はどこを探しても見当たりません。

しかしながら、実は、小笠原では、2015年にも嫁島でミナミハンドウイルカの白変種が確認されています(イルカ通信No.64)。2015年に白変種として確認されたのも

子供の個体であり、母親は#157でした。今回も嫁島での確認であったことから、ひょっとして、再び#157の子供なのかと思われましたが、母親を識別すると#173(ミカワ)ということがわかりました。ところが、これが大変興味深いことに、#173は#157の子供にあたります。つまり、2世代続いて白変種を出産したことになるのです。もしかすると、この子たちの家系は、遺伝的に白化異常を発現しやすいのかもしれませんが、まずは、この仔イルカが無事成長できるように、静かに見守っていくとともに、引き続き、この子たちの人生(鯨生?)を追っていきたいと思います。

※アルビノ(先天性色素欠乏症):メラニン生成に関係する遺伝情報の欠損により、メラニンが欠乏した個体

[引用] Fertl, D., & Rosel, P. A. Albinism. 2017. In: Würsig, B., Thewissen, J. G. M., & Kovacs, K. M. (Eds.). Encyclopedia of marine mammals. Academic Press. pp. 20-21

前回の白色個体



エール: この白色個体を初確認した方が、「エール」と名付けたことにちなみ、イルカ調査隊も現在の時節柄「コロナに負けるな!」の応援も込めてそう呼ばせていただくことにしました。

#157の孫も白色個体!

親子



親子



親子

ザトウクジラの定点観測結果報告~2019/20シーズン~

今シーズンのザトウクジラ定点観測結果のご報告です。昨年12月から1月後半までは昨シーズンと似た傾向で発見数が増加していきましたが、2月前半にピークを迎えた際には、昨シーズンを平均約4頭上回る結果となりました。その後も昨シーズン以上の値で推移し、3月後半になっても、一日平均15頭以上の発見がありました。しかしながら、4月に入ると一気に減少し、4月後半には昨シーズンを下回るほどになりました。今シーズンの印象としては、2月中旬に一日の発見数が過去最大を記録したことから、ピーク時のクジラの密度が例年以上に高かったように感じます。ザトウクジラの個体数の増加を物語っているのでしょうか。

昨シーズンに引き続き、ピーク時の発見頭数記録を更新!!

